

蘭越町
地域再生プラン

令和6年3月

蘭越町

もくじ

はじめに	1
第1章 蘭越町の概況	2
1 蘭越町の概要	2
2 蘭越町を取り巻く環境変化	3
3 蘭越町の趨勢	5
第2章 蒸気噴出による影響	8
1 蒸気噴出が町に与えた影響	8
2 蒸気噴出事案に対する町民意向	10
2.1 町民アンケート調査の概要	10
2.2 調査結果	10
2.3 調査結果のまとめ	19
第3章 地域再生に当たっての課題	20
第4章 地域再生の方針	21
第5章 地域再生に向けた施策	22
1 蘭越産品の高付加価値化を通じた生業の魅力強化	22
1.1 らんこし米の生産基盤、ビジネスとしての魅力強化	22
1.2 風評被害に関する営農者の経営支援	24
1.3 蘭越産品のプロモーションを通じた販路拡大	25
2 町への愛着を高めるための生活環境の維持・向上	27
2.1 蒸気噴出による直接的影響からの復旧	27
2.2 非常時における対応力の強化	28
2.3 再生可能エネルギーの活用など、持続可能な暮らしの推進	29
2.4 次世代を育む、定住意向の高い“蘭越暮らし”の実現	30
3 蘭越への来訪・移住を誘発するための環境づくり	32
3.1 まちのブランド力向上に向けた情報発信	32
3.2 来訪者の受け入れ環境の整備	33
3.3 定住希望者の受け入れ環境の整備	35
第6章 計画推進に向けて	37
1 地域再生プランとその他の計画との連携	37
2 地域再生プランの運用と見直し	38

はじめに

令和5年6月29日（木）午前11時30分頃に蘭越町交流促進センター雪秩父、大湯沼から北東に約300m進んだ地点において、地熱発電の掘削調査中に蒸気が噴出する事案が発生しました。

同日、本町では農業用水や一部の飲料水の取水制限を実施するなど、町民の安全を守るための措置を実施しました。その後も状況に応じた対応を行うとともに、環境調査結果を確認しながら、取水制限を順次解除しながら、全面解除するに至りました。

本事案が与えた環境への影響については、数年をかけて調査を実施し、今後評価を実施することになっています。幸いにも、現時点では人命に関わる健康被害は認められませんでした。本事案の内容が全国で報道され、本町のイメージや産業に対して与えた損害は小さくありません。

本プランは、今回の蒸気噴出をきっかけとして議論をしたものであり、蒸気噴出以前からの課題も含め、町として地域活性化のために当面考えられる施策をまとめたものです。低下した町のイメージ回復や農産物を中心とした町の産業に対する風評被害対策、町民からの信頼回復にむけたアクションを位置づけ、関係機関と連携しながら着実に実行することにより、早期に町のにぎわい再生を目指すものです。



出典：NTT インフラネット

図表 1 位置図

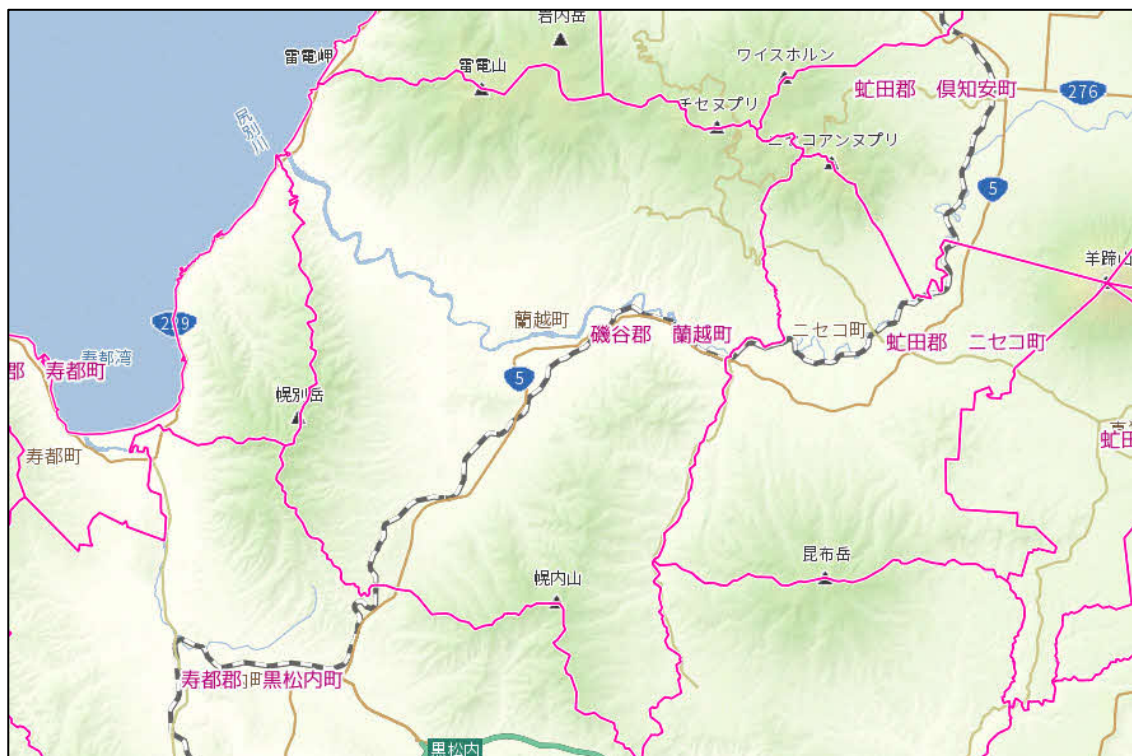
第1章 蘭越町の概況

1 蘭越町の概要

本町は、後志管内の南西部に位置し、周囲をニセコ連峰等の山岳に囲まれた盆地を形成し、町域の多くがニセコ積丹小樽海岸国定公園に指定されるなど、自然や生物の多様性にも優れた、風光明媚な美しい町となっています。

特別豪雪地帯に指定されているものの、夏は比較的温暖で降雨量や日照時間に恵まれていることに加え、尻別川に沿って肥沃な農耕地が形成されており、農業が町の基幹産業となっています。

本町では、温泉はふんだんに湧き出て泉質の異なる温泉郷が点在し、観光資源にもなっています。また、ニセコエリアにも隣接しており、スキー開発が進められた経緯もあります。



出典：NTT インフラネット

図表 2 位置図

2 蘭越町を取り巻く環境変化

本町の蒸気噴出事案で受けたダメージ等からの再生を中長期的な視点から検討するにあたり、踏まえるべき環境変化としては、以下のような事柄が挙げられます。

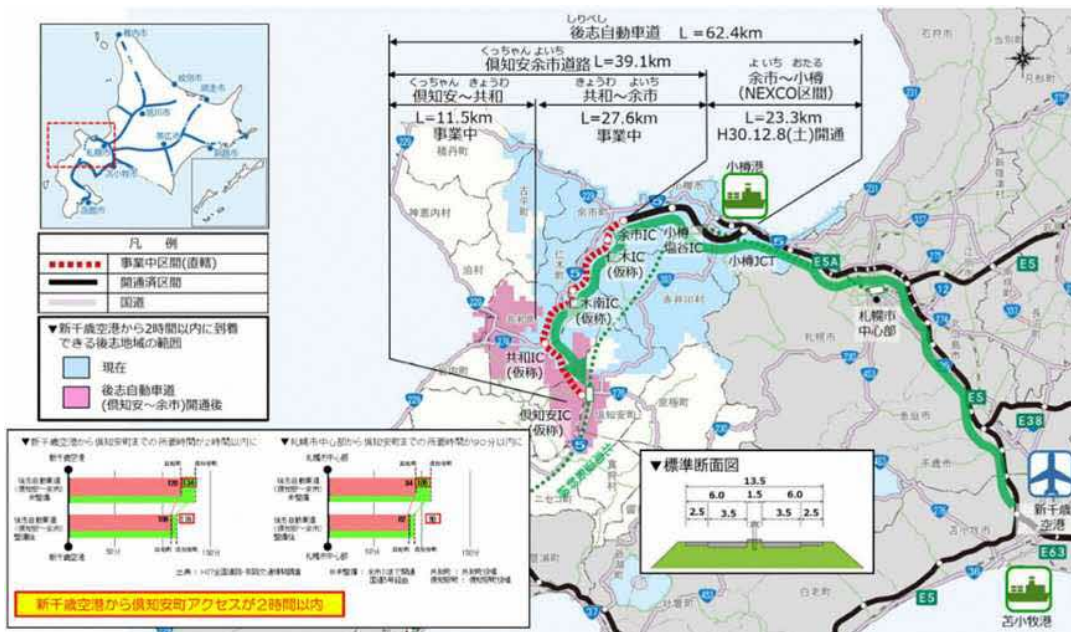
1 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う人の往来の再開

- ・ 新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、人の往来が大幅に規制され、社会・経済活動に大きな影響を与えました。
- ・ 令和5年5月に感染症は5類に引き下げられ、人の往来に関する制限も実質的になくなり、コロナ禍以前のものに戻つつあります。
- ・ 一方で、テレワークの普及、それに伴うワーケーションの取り組みといった都市と地方の新しい関係性が模索されるとともに、キャンプ・グランピングをはじめとするアウトドア活動への需要の高まりなど、新たな活動スタイルも定着しました。

2 インバウンド需要の中長期的な増加

- ・ 近年、インバウンド旅行者が大幅に増加してきました。新型コロナウイルス感染症の影響により激減はしたものの、その流れは今後回復すると予測されます。
- ・ こういった流れの中で、ニセコエリアでは、外国人の流入が急速に進み、外国資本も数多く投下されており、本町もその例外ではありません。
- ・ これまでは、多くの訪日外国人旅行者はパッケージツアーや団体旅行で日本を訪れていました。しかし、海外旅行の経験者が増えるに従い旅行目的も多様化し、不特定多数を対象としたパッケージツアーなどではなく、自分の目的に合わせた旅行をしたいという要望が高まり、FIT(Foreign Independent Tour)も増加しています。

- ・ 広域的な交通網についても整備が進められています。
- ・ 具体的には、北海道新幹線が 2030 年度末の開業を目指して準備を進めており、倶知安駅が新設される予定です。一方で、並行在来線(函館～小樽間)については、そのあり方について検討が進められており、長万部～小樽間は「バス方式」で運行することが確認されています。
- ・ 加えて、余市町から倶知安町を結ぶ自動車専用道路の整備が進められています。この道路の開通に伴い、本町と札幌市や新千歳空港とのアクセスが改善される見込みです。また、余市から黒松内間の整備が基本計画として位置づけられており、先般、倶知安～蘭越間の計画段階評価に係る対応方針案が了承されたことから、本町までの延伸が期待されています。



出典：北海開発局

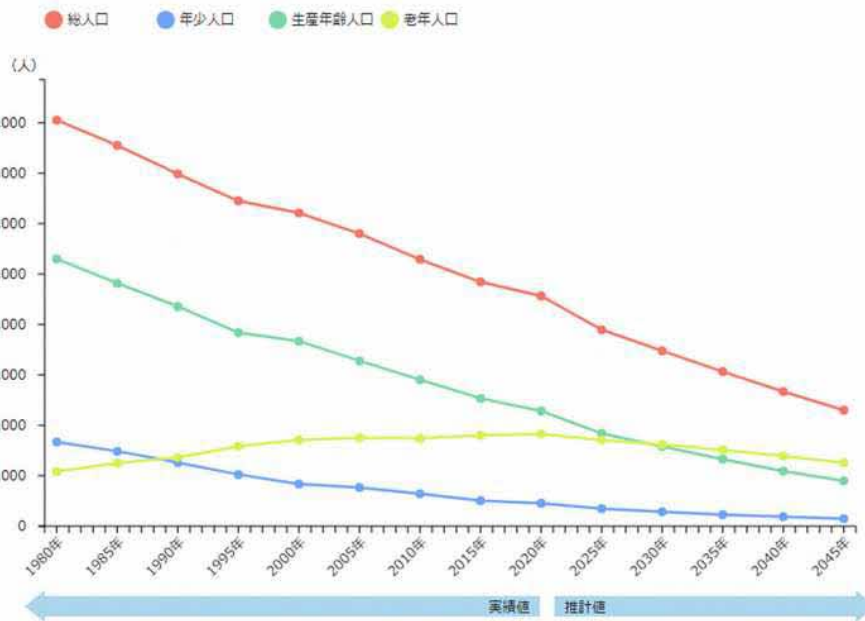
図表 3 倶知安余市道路の事業概要

3 蘭越町の趨勢

(1) 人口動態

- ▶ 就業の場の不足などを要因に、昭和 35 年以来人口が減少を続けています。
- ▶ 人口減少、少子高齢化が進み、今後 20 年で本町の人口は約半数にまで減少すると推計されています。
- ▶ 一方で、ニセコエリアの従業者の住まいとしてニーズが高く、近年は就労者の転入も見られるなど、これまでとは違う傾向も確認できます。

- ・ 蘭越町の人口は、2023 年3月末時点で 4,448 人(蘭越町住民基本台帳)となっており、人口減少が過去半世紀にわたり続いています。しかし、過去に想定(蘭越町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン)した減少よりも、減少幅はやや緩やかに推移している状況です。
- ・ その理由としては、ニセコエリアへの観光客の入込増で観光業が活況を呈し、働く場所が確保され、ニセコ町・倶知安町の住宅費の高騰などから、本町への転入者が増えたことが要因と考えられます。
- ・ 新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、人の往来も改めて活発化してきたことから、ニセコエリアへのインバウンド観光客は再び増加し、本町への人口流入傾向も引き続き続くものと想定されます。今後の定住施策や企業誘致によっては人口増加も視野にいれることが可能な状況です。



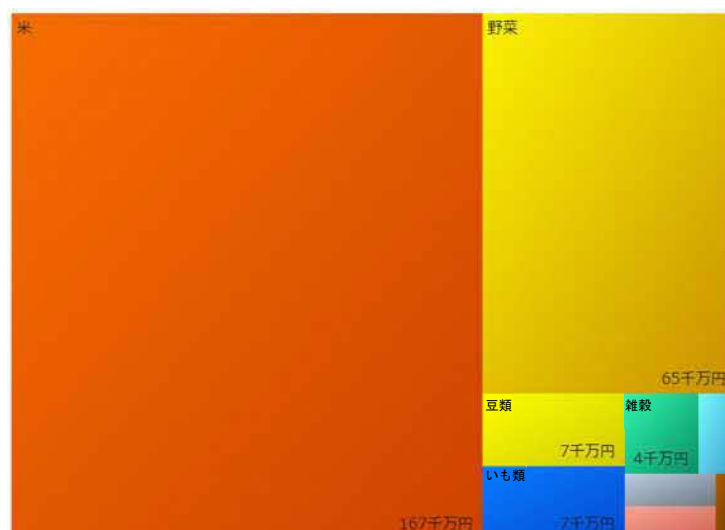
出典：REASAS

図表 4 人口推移

(2) 産業基盤

- ▶ 基幹産業は農業であり、特産品の「らんこし米」はブランド米として高い評価を得ています。
- ▶ 一方で、後継者問題などから営農者は減少を続けています。近年は、ワイナリーの形成を目指すなど、米以外の生産も力を入れています。
- ▶ 観光については、町内に7つの温泉郷が存在し、宿泊施設も点在するとともに、別荘地としての開発も一部で進められています。

- ・ 令和2年度の国勢調査によると、蘭越町における産業別15歳以上の就業者数は、総数2,498人に対し、第1次産業が634人(25.4%)、第2次産業が383人(15.3%)、第3次産業1,481人(59.3%)となっています。
- ・ 産業別の就業者数では、第1次産業に従事する人口は25%であり、第3次産業より少ないものの、本町の基幹産業は農業のため、農業協同組合や農機具メーカーなど農業に関連するサービス業への就業も多く、農業を中心とする就業構造となっています。
- ・ しかしながら、営農者は年々減少を続けており、基幹産業としての後継者確保は喫緊の問題となっています。
- ・ 農業については、農業生産額が26.3億円、販売農家戸数245戸、就農者数534人となっています。農業生産額のうち、米は16.7億円と63%を占めており、特産となっている「らんこし米」は、高品質・良食味のブランド米として高い評価を得ています。
- ・ 近年、ぶどうの栽培とワインの醸造も行われており、小規模醸造を可能とする「蘭越町ワイン特区」が認定され、ぶどうの栽培、ワイン醸造の新規参入を促し、ワイナリーの形成を目指しています。
- ・ 観光については、7つの温泉郷が点在し、各温泉郷において町営の温泉宿泊施設や民間の旅館、ペンションなどが営業しており、別荘地として開発された箇所も存在しています。



出典：REASAS（市町村別農業産出額（推計）：2021年）

図表 5 品目別 農業産出額

(3) 交通基盤

▶ JR 函館本線やコミュニティバス、その他輸送サービスはあるものの、町民の日常生活は自動車に依存しています。

- ・ JR 函館本線や国道5号が本町を東西に横断し、本町の重要な交通インフラを担っています。後志地域と札幌方面をつなぐ高規格道路が計画されており、小樽～倶知安間では事業着手するなど、整備が進められています(倶知安～蘭越間は対応方針案が了承済み)。
- ・ 自動車を運転できない町民の移動に関しては、「らんらん号」やスクールバスの運行、移送サービス事業(福祉サービス)などがカバーしていますが、自家用車を利用した移動が多くを占めています。

(4) 自然環境

▶ 豊かな自然環境があり、貴重で多様な生態系を有しています。
▶ 湧水・地下水の資源も豊富であり、一部の集落などでは、井戸の利活用も積極的に行われています。
▶ 地熱の存在など、再生可能エネルギーの多面的な活用が可能です。

- ・ 本町は、町域の41.7%を山林(天然林)が占め、自然公園法に規定する自然公園(ニセコ積丹小樽海岸国定公園の一部)にも指定されるなど、豊かな自然に恵まれています。また、生物多様性の観点から重要度の高い湿地であるニセコ連山湿原群を有するなど、国内希少野生動植物種の生息地を含み、多様な生態系も残されています。
- ・ 本町では、地下水を一部簡易水道にも活用するなど、豊富な水資源を有しており、一部の家庭では、各個に井戸(飲用水)を設置し、日常生活を営んでいます。
- ・ 加えて、ニセコ火山群に熱源を持ち、自然エネルギーの熱を多面的に活用することができ、重要な資源となっています。

(5) 防災

▶ 尻別川周辺における氾濫リスクや土石流危険渓流が各地に存在しています。

- ・ 町の中央を道南最大の河川「尻別川」が東西約30kmにわたり貫流しており、貴重な自然資源となっている一方で、河川の沿線では、一部の箇所において氾濫リスクが存在しています。
- ・ また、周辺をニセコ連峰などの山岳に囲まれていることから、土石流危険渓流が存在するなど、防災上のリスクも存在しています。

第2章 蒸気噴出による影響

1 蒸気噴出が町に与えた影響

令和5年6月29日の蒸気噴出事案の発生以降、本町での日常生活や産業に対して様々な影響が発生しました。特に、噴出発生中のマスコミ報道により、全国に蘭越の名前が報じられ、町民生活や産業に与えた影響は小さくないと考えています。



蒸気噴出の様子（掘削地）



蒸気噴出の様子（遠景）



河川の白濁

蒸気噴出事案が町民や町に与えた影響

直接的に出た影響

- 交流促進センター雪秩父の休業（8月7日～8月18日）
 - 岩内洞爺線（ニセコパノラマライン）の通行止
 - 井戸水や専用水道（交流促進センター雪秩父）におけるヒ素成分の検出
 - 流域農家における取水制限
 - 噴出地点周辺での体調不良者の発生
 - 子育て関連施設における屋内の遊び場の確保
 - 夏祭りなどの地域イベントの中止
- など

噴出に伴う風評被害

- らんこし米などの農産品の流通に関する影響（キャンセルなどに伴う生産者の収入減少）
 - 幽泉閣などの宿泊施設における利用者減少、宿泊キャンセル
 - 事案の情報収集や町民への周知などにより、その他の公務に影響
- など

なお、一部のエリアでは、河川や地下水にヒ素の含有が確認されており、自然環境に与えた影響については、環境影響調査として数年をかけて影響の調査が行われます。

【蒸気噴出事案への主な対応（事業者及び関係機関との協議等を除く）】

日程	対応内容
6月29日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・午前11時30分頃に蒸気噴出が発生 ・町にて事故を認知し、問い合わせ窓口を設置 ・農業用水及び一部飲料水の取水制限を開始 ・現場（取水制限実施）付近の住民への飲料水の配水
6月30日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・現場（取水制限実施）付近の住民への入浴券の配布 ・農業用水の取水制限対象の農家に、消防車による給水を開始 ・水源地及び浄水場の水質検査を実施 ・関係機関（国、北海道、警察、消防等）との協議
7月5日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・健康被害相談窓口の設置及び運用開始 ・農業用水の取水制限の一部を解除（尻別川流域）
7月7日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・議会全員協議会の開催 ・事業者に対し、白濁処理水の放出に関する抗議文の提出 ・農業用水の取水制限全面解除（ニセコアンベツ2号川流域）
7月17日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・送水ホースが設置され、白濁処理水の処理が適正化
7月18日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・「蒸気噴出対策連絡会議」が事業者主催により開催
7月25日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・「第2回蒸気噴出対策連絡会議」が事業者主催により開催
8月1日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・「第3回蒸気噴出対策連絡会議」が事業者主催により開催 ・「令和5年度倶知安保健所健康危機管理研修（テーマ：ヒ素による健康影響）」が倶知安保健所主催により開催
8月8日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・「第4回蒸気噴出対策連絡会議」が事業者主催により開催
8月22日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・「第5回蒸気噴出対策連絡会議」が事業者主催により開催
8月24日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・井戸の埋戻し作業を開始
8月28日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・井戸の埋戻し作業が完了し、蒸気噴出が収束
9月5日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・「第6回蒸気噴出対策連絡会議」が事業者主催により開催 （今後は新たな会議体が組成され、蒸気噴出による影響について協議）

2 蒸気噴出事案に対する町民意向

蒸気噴出事案が本町に及ぼした影響については、これまでにまとめたとおりですが、町民の意向を確認するために、簡易アンケート調査を実施しました。

2.1 町民アンケート調査の概要

- 1) 調査の目的 蒸気噴出事案が町民意識に与えた影響を把握するため
- 2) 調査の方法 郵送による配布・回収
- 3) 調査の期間 2023年11月10日～11月22日(当日消印有効)
- 4) サンプル数 102票 (200票配布:回収率51.0%)
- 5) 抽出方法 無作為抽出

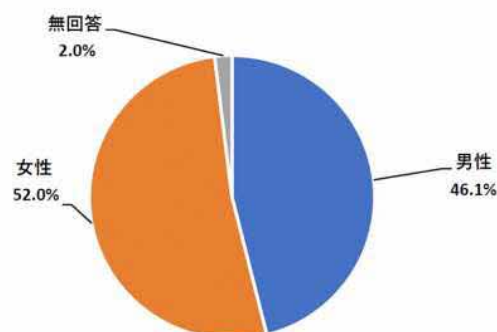
2.2 調査結果

1) 回答者属性など

(1) 性別について

- ・ 回答者の性別は、「男性」が46.1%、「女性」が52.0%となっています。

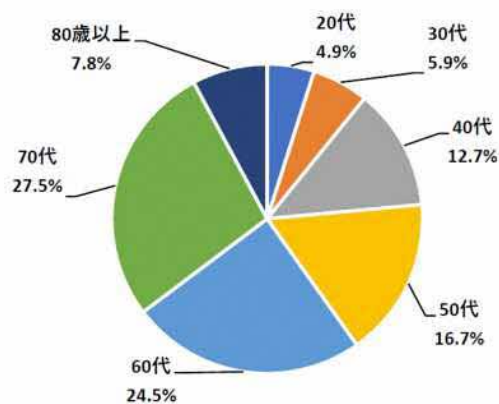
選択肢	回答数	構成比(%)
1. 男性	47	46.1
2. 女性	53	52.0
無回答	2	2.0
合計	102	100.0



(2) 年齢について

- ・ 回答者の年齢は、「70代」が27.5%で最も多く、次いで「60代」が24.5%、「50代」が16.7%となっています。

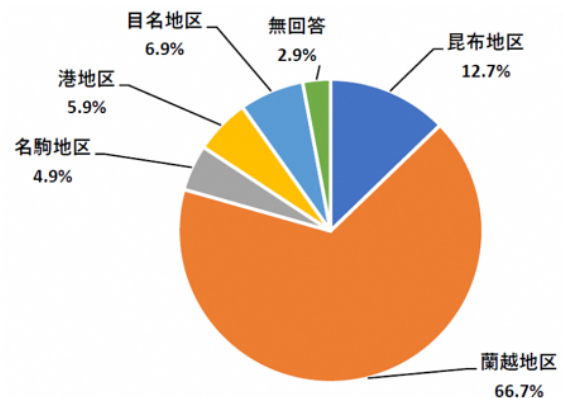
選択肢	回答数	構成比(%)
20代	5	4.9
30代	6	5.9
40代	13	12.7
50代	17	16.7
60代	25	24.5
70代	28	27.5
80歳以上	8	7.8
無回答	0	0.0
合計	102	100.0



(3) 住まいについて

- ・ 回答者の住まいは、「蘭越地区」が 66.7%で最も多く、次いで「昆布地区」が 12.7%、「目名地区」が 6.9%となっています。

選択肢	回答数	構成比(%)
昆布地区	13	12.7
蘭越地区	68	66.7
名駒地区	5	4.9
港地区	6	5.9
目名地区	7	6.9
無回答	3	2.9
合計	102	100.0

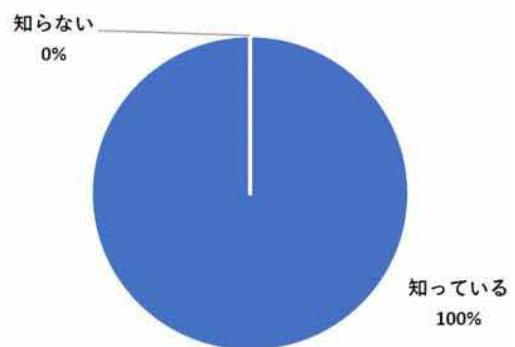


2) 蒸気噴出について

(1) 蒸気噴出事故を知っているか

- ・ アンケート回答者全員が「知っている」と回答しました。

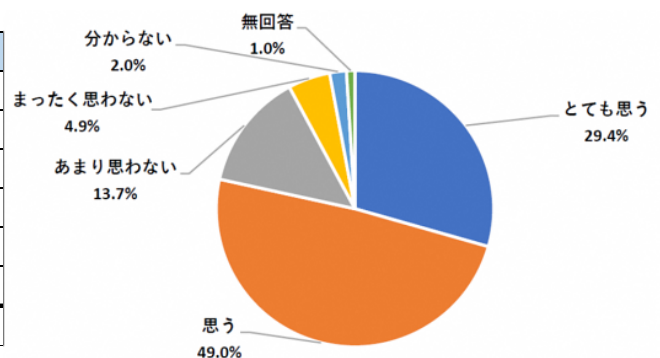
選択肢	回答数	構成比(%)
知っている	102	100.0
知らない	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	102	100.0



(2) 蒸気噴出は何らかの影響があったと思うか

- ・ 「思う」と回答した人が 49.0%で最も多く、次いで「とても思う」と回答した方が 29.4%、「あまり思わない」と回答した方が 13.7%となっています。今回の事故で何らかの影響を受けたと感じる町民は約 8 割にのびりました。

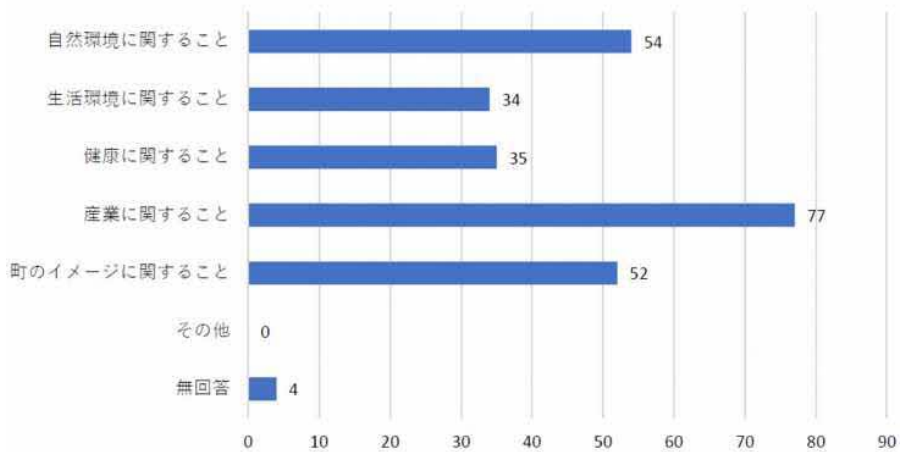
選択肢	回答数	構成比(%)
とても思う	30	29.4
思う	50	49.0
あまり思わない	14	13.7
まったく思わない	5	4.9
分からない	2	2.0
無回答	1	1.0
合計	102	100.0



(3) どのような分野で影響があったと思うか(複数回答可)

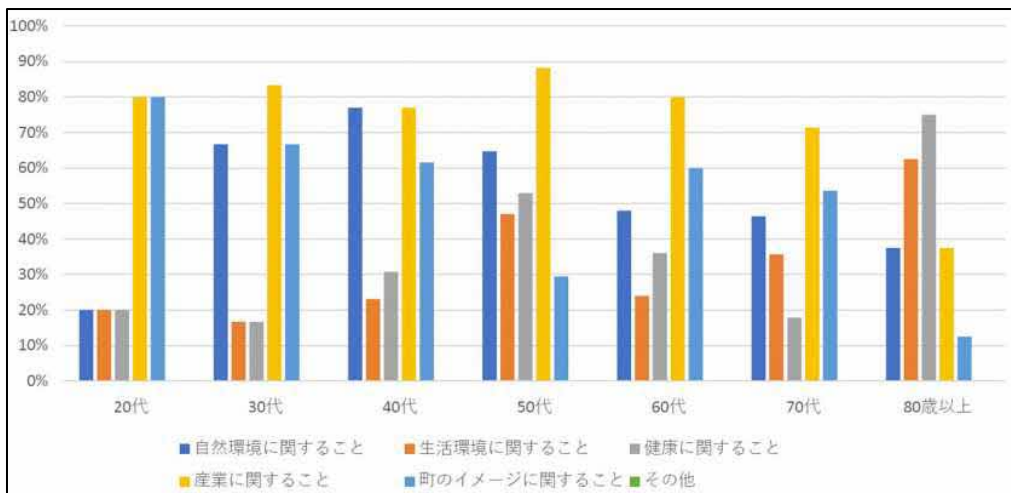
- ・「農業や観光の風評被害など、産業に関すること」と回答した方が75.5%で最も多く、次いで「河川や土壌の汚染など、自然環境に関すること」と回答した方が52.9%、「新聞やテレビ報道など、町のイメージに関すること」と回答した方が51.0%となっています。

選択肢	回答数	構成比(%)
河川や土壌の汚染など、自然環境に関すること	54	52.9
安全・安心な飲料水や大気など、生活環境に関すること	34	33.3
硫化水素ガスやヒ素など、健康に関すること	35	34.3
農業や観光の風評被害など、産業に関すること	77	75.5
新聞やテレビ報道など、町のイメージに関すること	52	51.0
その他	0	0.0
無回答	4	3.9
合計	256	—
回答者数	102	



- ・多くの年代で、「産業に関すること」に回答した町民が多く、産業面への影響を問題視する傾向があります。ただし、80歳以上を中心に、「健康に関すること」に回答した方が多くなっています。

■年齢クロス(構成比)



■具体的な被害に関する自由意見

<自然環境に関すること>

- ・ 自然環境がおかされてこの後何年も影響があるのでは。
- ・ 蒸気で樹木草花等の回復にどのくらい時間がかかるのか。
- ・ ヒ素など有害な物が川や土などに流れ続けているのが心配である。
- ・ その後周辺の自然にどのような影響があったのか調査し町民に知らせてほしい。
- ・ 山菜への影響(たけのこ)。汚染はないのか？
- ・ 飛来の浸透が下流に及ばなければ良いと思う。風評の被害は町の対応が良かったのであまりないと思う。
- ・ 自然環境の良さが町の宝ですので環境にきずを残さないようにお願いします。
- ・ 噴出を止めたがまたどこからか違う場所で噴出するのではないか。

<生活環境に関すること>

- ・ 地下水を含む飲料水の影響。
- ・ 周辺の井戸水水質検査を含めた継続した環境モニタリング調査について報告を10月から聞かされていないので不安があります。※不安でなく町長はじめ町の取組、PR や要請の積極的行動が蘭越町を全国にピンチをチャンスに強みへのアピールに伝わっていると期待させる。
- ・ 飲料水は蘭越のどの世帯にも悪影響がこの先もないのか心配である。
- ・ 土の中の事はわからない事が多いと思うのでより慎重に！

<健康に関すること>

- ・ 健康については長期的に経過観察してほしいです。

<産業に関すること>

- ・ 主要産業である1次産業は環境のイメージが先走る(清流など)ので、そのイメージを払拭するのは難しいのかなと思います。
- ・ ブランド米として知名度が上がりつつあったらんこし米の信用が落ちた。
- ・ R5年度、米の販売のキャンセルが多かった。
- ・ 蘭越のお米・らんこし米は大丈夫？というお客様がいる。生産者として今後長期間にわたり、信頼回復ができるのか！？
- ・ 風評被害によりらんこし米が売れなくなるのでは。また、今年だけでなくその状況がいつまで続くのか心配です。
- ・ 農産物等の品質等には全く影響が悪いはず。「補償」だとか大きく出ると「蘭越産」は安心安全ではないという風評被害は出るのは当然。
- ・ 長年の努力により、本町の米が全国区で有名になりつつあります。やはり風評というある意味大災害を引き起こしかねない状態になる事をずっと危惧しておりますが、現在、それほどの影響がないと思われる事に多少安堵しております。
- ・ らんこし米のブランド力の低下。特に蘭越町民が他地域の人へお米を送るのをためらい、さらに売上が低下すると思う。
- ・ 水質が汚染されているという風評により、米の売れ行きが例年より悪く、その状況がいつまで続くか心配である。

<町のイメージに関すること>

- ・ TV で報道があったがその後の対応を引き続き町民に知らせて頂きたい。
- ・ 蘭越＝悪いイメージが人々の中でどのくらい残るのか。修学旅行や観光場所に蘭越が外されないか不安である。
- ・ 風評被害は長く続くので何をするのにも事実をしっかりと伝える事が大事。
- ・ 全国ニュースで度々取り上げられていたせいか道外の友人からも心配の連絡がきた。風評被害がありそうだと思っている。
- ・ 風評被害を利用して蘭越の良いところを発信しているか、しているのであれば知りたい。
- ・ 風評被害についてはそれほど長引くとは思わない
- ・ 農業に携わる身として、風評被害はとても気になります。蘭越町は広いですが、蘭越町というだけで町全体が汚染されているのではと思われるのが悲しいです。
- ・ 今まで後志と言えば倶知安、ニセコ町と TV 天気等町名があがっていたが、「蘭越町」とあげられるようになった。良くも悪くも”あの”蘭越町となるのだと思った。
- ・ 蒸気噴出というイメージの町。
- ・ ニュースで見た時は、川の水は真白でこれは大変なことになったと思いましたが、三井さんの対応の早さと職員の毎日早朝から夜遅くまで現場を見、三井さんへ町民の要望をうったえ、それに答えてやってくれた事、安心してニュースを見ていました。悪い所ばかり報道しないで、関係者、町民さんはじめ職員の方々が頑張っている事を報道してくれたらこんなに風評被害にならなかったと思う。
- ・ 少しは知名度が上がったと思うが、せっかくのチャンスに米以外にこれといって特にアピールできるものがなく残念だった。
- ・ 毎日、新聞テレビで報道されてイメージが悪くなった。良い事で報道されてほしかった。米の売れ行きが心配です。
- ・ SNS で蘭越町のイメージが下がる文章が残り、反対に良いイメージのものがこの事故については影響が薄いこと。もっとダメージ回復に対するコメントを発信する必要があると思う。
- ・ 新聞やテレビなどメディアによって事実よりもかなり大きな影響を及ぼしたかのような報道がなされていました。その時は遠方の友人などからも心配され、全国的にイメージが悪化したように思います。ただ人は忘れやすいので、もうみんな忘れてるように思います。「らんこし米おいしいよね！」と言われることもまた多くなったので、その影響はあまり続いていないように思います。

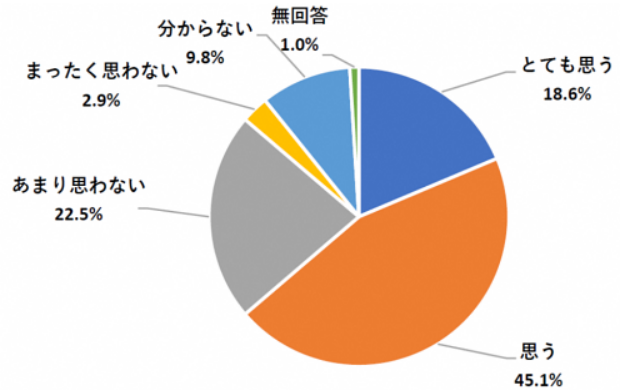
<上記以外に関すること>

- ・ 実際に米などにどのような影響があるかわからないので何も言えない。私はもう無いと思うが、あるとすれば町が先頭になり汚染等無い安全なことを PR すべき。
- ・ すぐそばに大湯沼ガス、雪秩父の温泉が噴き出している場所での掘削。(地熱調査なので両方必要なのはわかるが)このような結果になるであろうことへの対策ははじめに考えられなかったのでしょうか？道有林だからこのように一帯の木が枯れても良いと思ったのでしょうか？町長の責任も問いたいと思います。
- ・ 事故の検証と噴出ガスによる影響について科学的分析、その結果を公表する事により徐々に不安が解消されていくと思われる。
- ・ 反面、全国的に蘭越町の宣伝、アピールにつながったかと…。ここで地熱事業を優先的に始めた方が良いと思います。そこで働く人を確保して住宅を増やした方が良いと思います。

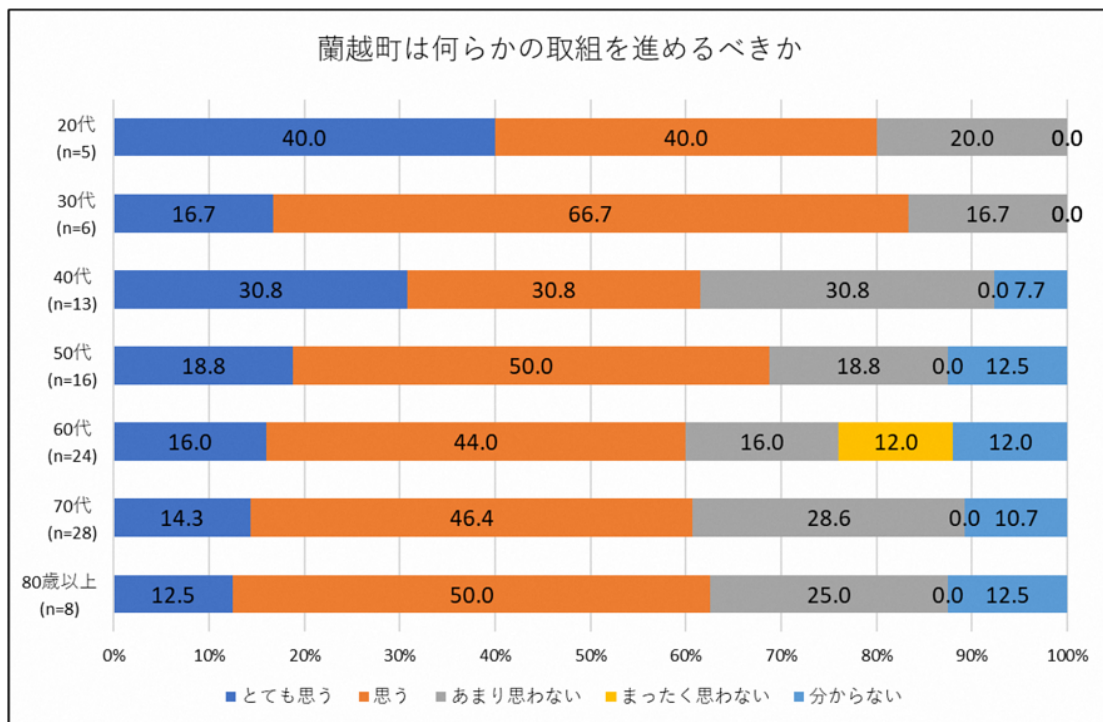
3) 蘭越町は何らかの取組をすべきか

- ・「思う」と回答した方が 45.1%で最も多く、次いで「あまり思わない」と回答した方が 22.5%、「とても思う」と回答した方が 18.6%となっています。蘭越町が何らかの取組をすべきだと考えている町民が約 6 割となりました。
- ・年齢クロス集計を見ると、どの年代でも何らかの取組をすべきと考えている方が多くなっていますが、特に 20 代や 30 代ではその割合がやや高くなりました。

選択肢	回答数	構成比(%)
とても思う	19	18.6
思う	46	45.1
あまり思わない	23	22.5
まったく思わない	3	2.9
分からない	10	9.8
無回答	1	1.0
合計	102	100.0



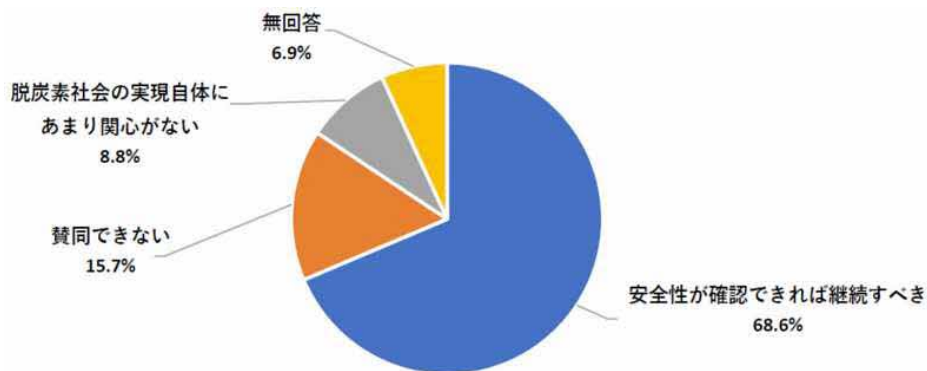
■年齢クロス(構成比)



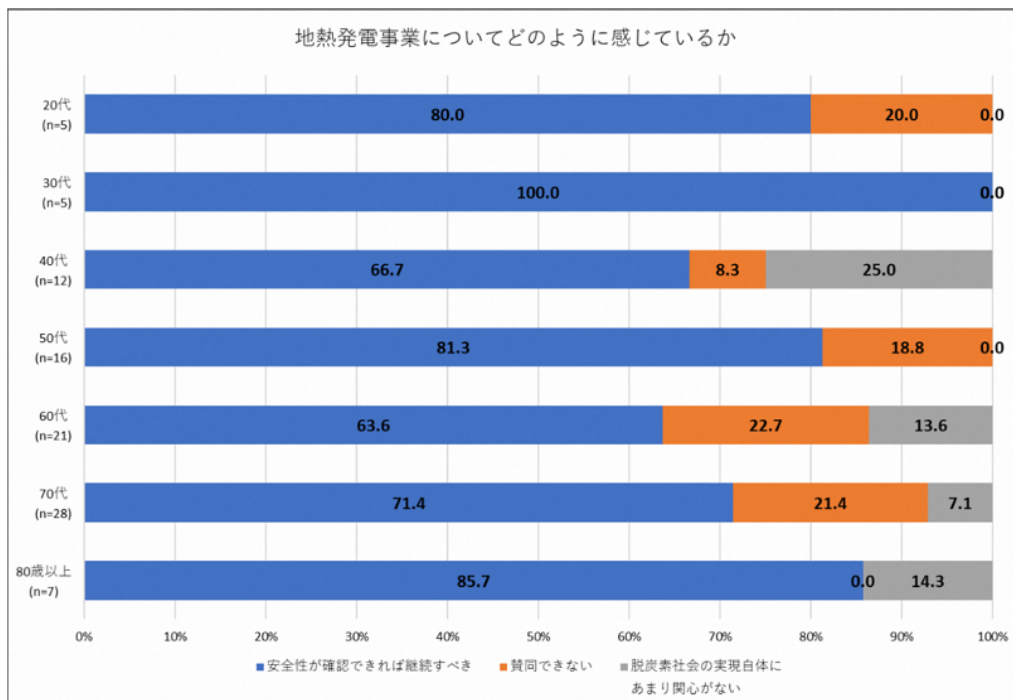
4) 地熱発電事業に関してどのように感じているか

- ・「安全性が確認できれば継続すべき」と回答した方が 68.6%であり、「賛同できない」と回答した方が 15.7%でした。半数以上の町民が再生可能エネルギーの活用を継続すべきと考えています。
- ・年代別に見ても、大きな傾向の差はなく、どの年代でも継続すべきと考える方が多くなりました。

選択肢	回答数	構成比(%)
脱炭素社会の実現に向け重要であり、安全性が確認できれば継続すべき	70	68.6
脱炭素社会の実現は重要であるが、地熱発電事業についてはさらなる事故発生の心配があり、継続することには賛同できない	16	15.7
脱炭素社会の実現自体にあまり関心がない	9	8.8
無回答	7	6.9
合計	102	100.0



■年齢クロス(構成比)



5) その他自由意見

- ・ 極論イメージに関してうだうだ言う人は何の取組をしてもそれを受け入れないと思うので時間が解決する問題なのかなとは思いますが。
- ・ 地元でこんな大きな事故が起きて、対応した町や関係者の方々の業務は大変だったと思います。起きてしまった事は仕方がないですがこれからの様々な対応まだ続くと思えますがよろしくお願ひしたいと思えます。
- ・ 事故が起きると、多額のお金が必要になる事は確かです。事故を未然に防ぐためには必要な準備をすることが大切です。例えば工事をする場合には安全に作業を行うための必要な準備をしっかりと行うことが重要です。事故を未然に防ぐことができなければ、多額のお金を必要とすることは無いと思えます。
- ・ 地熱エネルギーがあることが判明、今回の事故等無いように発電等に利用すべき。
- ・ 二度とこのような事故が起こらないようお願ひします。
- ・ 地熱発電事業を進めることがこれからの蘭越にはプラスになると思えますので、これからも継続してほしいです。
- ・ 報道しすぎなのでは？
- ・ 脱炭素社会の取組はある程度必要な取組ではあるが、今回の事故現場の独特な地盤を考えると、また別の場所からの蒸気の噴出も十分考えられるのでは。場所変更も視野に入れて十分慎重に取り組む必要があるのではないか。
- ・ 道内地熱発電が東北九州に比べると少ない。今回の事故は業者によるミスが要因。同じ業者に行わせることにより再発防止の視点から最も適任と考える。
- ・ あったことはあったこと。町が悪いことをした訳ではないので今までと同じで良い。何かせめられるべきは国へ。よそで同じ様なことは無いようにしてほしい。人が動かなければ環境汚染はない。何もしないのが一番しい。便利になって長寿になり人口増加で汚染は倍増。
- ・ 脱炭素以前に蘭越町の産業としてや、働く場所としても必要ではないか？
- ・ もうちょっと町民に対する説明会を増やしてほしかった。未だによくわからない事が多々あります。
- ・ メディアの対応。メディアによる報道の影響はとても大きなものなので、一過性のものでなく、その後のところまでしっかり報道してほしいと思えました。
- ・ 事故発生への心配ももちろんだが、温泉湧出に影響が出るのではないかが心配。
- ・ 町が悪いとは思っていないので、特に意見はないです。
- ・ 一時期、テレビのニュースでよくやっていたが、町内の人も町外の人も、そんなに関心なさそう。そもそも脱炭素や工事を大体の人は知らない感じがする。賛同する人も反対する人もあまりいないと思う。
- ・ 失敗は成功のもと。この事業は絶対やめない方が良いでしょう。有識者見解の健康被害がない事をもっと前面に押し出して良いでしょうと思えます。
- ・ 2016年から地熱調査が進められており、さらに2022年からは周辺環境モニタリング調査をしている様子ですが、掘削中の事故は起こりえる事だと思います。そのため対応早く当日に周知し、翌日には飲料水・農業用タンク車で対応ができたのではと思えますが、一部の報道では現在進行形の取組より事実がないあいまい事で風評被害を広げた。一部のみ事とほかの安全地区を強調すべき所を強調することが大切と思えます。町民説明会には多くの町民が出席し、必ず質問意見など行う事が職務と思ってほしいです。

- ・新しいことを始めるのに安全を担保する(適切な表現ではありませんが)ことから始めてほしいです。せっかく何年もかかってできた雑木林、元に戻るのに何代先になるのでしょうか？こんなにリスクがあるのならばもういいような！でも他の発電事業を探すのにはまたこのようなリスクがあるような！ジレンマですね！
- ・今回は残念な結果にはなったが新たなチャレンジに失敗はつきものだと思う！
- ・町の対応は誠に適切で良かった。
- ・今回はセメント等で埋め戻したが、地下ではどの様になっているのか分からず、他の場所から再度蒸気噴出が起こるのではと不安があります。
- ・蒸気噴出は思いの外長く続きましたが、どのくらい蘭越町に悪影響があったのか数字で示してほしい。三井側の対応は住民説明会等良心的(賠償等などの対策)どのくらい進んでいるかはわかりませんが。
- ・国及び事業者への対応。現地周辺には大湯沼等があり日常的に硫化水素ガスが噴出している。今回の試掘でも浅い地層でのガス噴出が十分予測できた事であり、あまりにリスク管理が杜撰である。有毒ガス噴出の初期対応が悪い。国は事業者に対する指導等の役割を課すべき。許認可等にあたって十分な審査をすべき。画一的な基準ではなく調査地域ごとに審査すべき。
- ・今回の事故当初(第1回会社説明会の日)の議員さんの危機管理に対するお気持ちに疑問がありました。視察で札幌にみんなで行かれた用事があったということを知りましたが、町の大事な時の対応として適切だったのでしょうか？今後もいろいろな危機が起きると思うので、議員さんの自らの対応を期待します！
- ・地熱調査は今回の問題が解決するまで辞めるべきと思う。
- ・地熱エネルギーを考えると、暖房、冷却源、蓄熱、温泉など利用源は多岐に及ぶとされ、地球内部から発せられるエネルギーなので将来性にも期待できる。「再生可能エネルギー」への切り替えは急務と考えます。
- ・NHK その他のTV でらんこし米を多く取り上げてもらい、米-1 もあったのでイメージはかなり回復したと思います。ただ事故の直後、「こんなに影響受けてる！補償を！」と訴えながらイメージを回復しようとする？と対応に一貫性が少し欠けているところもあったのではと思います。(イメージ悪化させたくないのであれば、補償の訴えは水面下で進め、メディアには「全く影響ないです」というスタンスで対応するという方法もあったのではないかと思います)
- ・ヒ素が出た事は専門家の話(TV)では、とてもまれだとの事。めげずに地熱研究の開発を行ってほしい。

2.3 調査結果のまとめ

今般の蒸気噴出事案により、日常生活や産業に何らかの影響を受けたと感じる町民が大多数となりました。

河川や土壌などの自然環境や飲料水などの生活環境、健康への影響といった物理的な影響に関する心配はもとより、産業に関する風評被害やまちのイメージダウンの影響を不安視する声の方が相対的に大きい結果となり、今後の対策を求める意向も高いことから、風評被害対策やイメージ回復に向けた取組を進めていく必要があります。

特に自由記述部分では、らんこし米への影響を心配する意見が多数寄せられており、産業への影響を心配する結果を裏付ける内容となりました。加えて、蒸気噴出中の全国報道に比べて、事態収束に関するマスコミ報道の少なさを指摘する意見や、継続的な情報発信の重要性を指摘する意見も寄せられ、イメージ回復に向けたソフト面の取組の重要性を示唆する結果となりました。

一方で、今後の脱炭素社会に向けて、地熱をはじめとする再生可能エネルギー活用の必要性には一定の理解を示す町民は多く、安全確保を前提として、地熱活用の継続的な取組検討に向けて理解している町民の多さも確認されました。

第3章 地域再生に当たっての課題

蒸気噴出による影響や町民の意向も踏まえ、蘭越町の再生に向けた課題は以下のとおりに設定します。

まちの生業の再興・強化が必要

- ・ 蘭越ブランド形成の重要な役割を持つらんこし米の市場価値低下を懸念する声も多く、実際に影響を指摘する生産者も存在しています。農業生産者への直接的・間接的な支援、市場へのPRなどを通して、町における農産品（加工品含む）の高付加価値化に改めて取り組む必要があります。
- ・ 農業は町の基幹産業の一つであり、高付加価値化を通してビジネスとしての魅力を高め、営農者の減少に歯止めをかけ、町全体としての生産力を確保していく必要があります。

日常生活における安全・安心・賑わいの確保が必要

- ・ 地下（井戸）水におけるヒ素の検出など、事案の影響が無視できない事態も発生しています。町民の安全・安心な日常生活の再開に向けて、影響を軽減するための環境整備に取り組む必要があります。
- ・ 地熱をはじめとする豊かな自然資源を有する反面、自然に起因するリスクも存在しています。このリスクに適切に対応しながら、町民の安全・安心な暮らしを実現していく必要があります。
- ・ また、町のイメージ低下を懸念する声も多く、町ならではの暮らしの価値を再発見・PRし、町への誇りや愛着を高めていく必要があります。

外部への適切な情報発信による町への来訪・定住促進が必要

- ・ 蒸気噴出により、町の名前は全国に報道されました。一方で、収束に関する報道は少なく、町のイメージ低下は避けられない状況となっています。正しい情報発信やPR活動などにより、イメージ低下の回避ならびにイメージ向上を図る必要があります。
- ・ また、近隣町におけるインバウンド増加といった契機を活かすための新たなPR活動により、町への来訪や移住を促進していく必要があります。

第4章 地域再生の方針

これまでに設定した課題に対応し、本町の再生を推進していくため、以下のコンセプトならびに3つの方針を掲げ、必要な施策・事業を実行していきます。

らんこしの元氣再生 ～生業・くらし・イメージの一体的な回復・発展～

1 蘭越産品の高付加価値化を通じた生業の魅力強化

らんこし米をはじめとする本町産品の魅力を改めて発信することなどにより、消費者についたマイナスイメージを払拭するとともに、産品の安全性を継続的に確認しながら付加価値をより一層高めることで、今般の風評被害による影響を乗り越えます。あわせて、本町の基幹産業（ビジネス）としての魅力を強化することにより、持続的で力強い生業としての環境づくりを目指します。

1.1	らんこし米の生産基盤、ビジネスとしての魅力強化
1.2	風評被害に関する営農者の経営支援
1.3	蘭越産品のプロモーションを通じた販路拡大

2 町への愛着を高めるための生活環境の維持・向上

蒸気噴出により直接的・間接的に影響を受けた町民の日常生活を回復させることに加え、今後の確実な危機管理を可能にするための環境整備により、町民生活の安全・安心をより確かなものにしていきます。さらに、持続可能な暮らしという点で、再生可能エネルギーの活用にも改めて取り組むとともに、本町への愛着を高めるソフトの取り組みを展開することにより、定住意向の回復・向上を目指します。

2.1	蒸気噴出による直接的影響からの復旧
2.2	非常時における対応力の強化
2.3	再生可能エネルギーの活用など、持続可能な暮らしの推進
2.4	次世代を育む、定住意向の高い“蘭越暮らし”の実現

3 蘭越への来訪・移住を誘発するための環境づくり

蒸気噴出は全国に報道され、町のイメージ低下が起きました。低下したイメージ向上に向けた取り組みや、町周辺で起きている環境変化を捉えた来訪・移住の促進により、来訪者のみならず、関係人口の拡大を目指します。

3.1	まちのブランド力向上に向けた情報発信
3.2	来訪者の受け入れ環境の整備
3.3	定住希望者の受け入れ環境の整備

第5章 地域再生に向けた施策

1 蘭越産品の高付加価値化を通じた生業の魅力強化

1.1 らんこし米の生産基盤、ビジネスとしての魅力強化

本町の基幹産業である農業（主にらんこし米の生産・流通）に対して、取引や購入の停止やふるさと納税の辞退、インターネット上への誹謗中傷の書込みなど、蒸気噴出事案が与えた影響は大きいものでした。農業の再生に取り組むにあたっては、これまでに起きていた後継者不足に伴う営農者の減少についても、同時に解決を目指し、基幹産業としての役割をこれまで以上に高めていきます。

農業における DX 技術の導入など、従来の生産基盤をより一層強化するとともに、ビジネスとしての魅力を高めることにより、中長期的にわたって安定的な営農環境をつくり、持続的な基幹産業としての機能強化に取り組めます。

【施策及び事業】

●らんこし米の安全性の検証・情報発信【影響からの回復施策】

らんこし米の令和 5 年度の品質には問題が生じなかったものの、蒸気噴出が営農（自然）環境に与えた影響は長期的にモニタリングしていく必要があります。今後も継続してらんこし米の安全性や品質を確認するとともに、対外的な情報発信を続けることで、本町の米農家が安心して営農を続けるための環境づくりに取り組めます。

【取組事業】

- ・ **らんこし米の安全性発信事業【農林水産課】**
らんこし米の風評被害からの回復、ブランド力の向上に向けて、町内で生産された米の安全性を確認しながら、正しい情報を発信する。らんこし米の経営農家の安定化を通して、後継者確保につなげる。
- ・ **らんこし米のトップセールス推進事業【農林水産課】**
町長も含む本町関係者が関係機関に赴き、らんこし米のプロモーション（試食、食堂やレストランでの採用など）を行うことで、販売促進につなげる。
- ・ **らんこし米の販促イベント事業【農林水産課】**
商業施設などの多くの人が集まる場所において、らんこし米の配布を行うなど、販売促進キャンペーンを行う。

●持続的ならんこし米の生産基盤改善【影響からの回復を加速させる発展的施策】

地域団体商標の申請やGI（地理的表示）の取得検討といった、らんこし米の商品力やブランド力の維持・向上に加え、GAP（農業生産工程管理）導入に伴う生産性・効率性・労働安全などの総合的改善、スマート農業や農業DXの導入による労働力不足問題の解決など、今般の蒸気噴出による影響からの回復を契機に、一層強固な生産基盤を整え、基幹産業としての一層の魅力づくりに取り組みます。

【取組事業】

- ・ **らんこし米ブランド戦略策定事業 【農林水産課】**
策定検討委員会を組織し、らんこし米のブランド力向上・販売戦略の明確化を検討し、らんこし米ブランド戦略を策定する。
- ・ **らんこし米の生産基盤強化事業 【農林水産課】**
地域団体商標の申請や地理的表示（GI）の取得検討といったらんこし米の流通促進に向けた取組や、農業生産工程管理（GAP）の導入やスマート農業・農業DXの推進による生産基盤の強化など、中長期的な視点から農業の魅力の強化を進める。
- ・ **色彩選別機の購入支援事業 【農林水産課】**
今後懸念される高温障害（心白粒）への対応の観点から、生産者に色彩選別機の導入を促すための支援を行う。
- ・ **農耕播種機の購入支援事業 【農林水産課】**
今後懸念される担い手不足や高齢化への対応の観点から、生産者に農耕播種機の導入を促すための支援を行う。

●育苗施設の更新【再生に向けた追加施策】

本町では、らんこし米の生産者支援の一貫として、育苗施設を町営施設として運営しており、町内で生産されるらんこし米の約4割の苗を供給しています。現在の施設は築27年を経過し、老朽化が進んでいることに加え、今後の営農者における生産効率化などが進んだ際には、現在の育苗施設における生産量では供給量が不足する懸念があります。この施設の更新・機能強化により、らんこし米の生産拡大に向けた環境づくりに取り組みます。

【取組事業】

- ・ **育苗施設の更新事業 【農林水産課】**
施設の老朽化と今後見込まれる稲苗の需要を考慮し、育苗施設の更新を推進する。

1.2 風評被害に関する営農者の経営支援

蒸気噴出事案の発生後、迅速に農業用水の取水制限を実施するとともに、安全性を確認した上で取水制限を解除していることから、令和5年度のらんこし米の品質には問題が生じませんでした。一方で、報道の影響などにより、らんこし米の一部の流通に影響が生じ、営農者の経営に大きな影響を与えました。

影響に伴う損失の補償に加え、近年の物価高騰の影響の補填も含め、短期的な視点から営農者に対する支援を実施し、離農者の増加抑制に取り組みます。

【施策及び事業】

●風評被害による補償継続調整【影響からの回復施策】

令和5年度のらんこし米の品質には影響がなかったものの、一部の流通では蒸気噴出に伴う風評被害が発生するなど、営農者の経営に影響を及ぼしました。来年度以降の風評被害の発生については予想できませんが、実際に環境に与えた影響については今後数年間の間で調査が実施されることとなります。今後も継続的に風評被害や営農者に与える影響を把握し、適切な補償を事業者に求めます。

【取組事業】

・ 風評被害による補償継続調整【農林水産課】

令和6年度以降の農業製品の風評被害の状況をモニタリングしながら、営農者と事業者間における補償の有無や内容に関する調整を支援する。

●営農者への物価高騰支援【再生に向けた追加施策】

最近の物価高騰は営農者の経営にも影響を与えており、風評被害も相まって、経営に苦慮している営農者も存在します。したがって、物価高騰対策についても合わせて実施することで、営農者の経営環境の改善に取り組みます。

【取組事業】

・ 営農者への経営支援事業（物価高騰対策）【農林水産課】

農業関連の物価（ハウス資材、肥料など）高騰対策として、営農者への経済的な支援を実施する。

1.3 蘭越産品のプロモーションを通じた販路拡大

蒸気噴出事案による影響を受け、新米のシーズンに合わせたプロモーション活動を展開するなど、らんこし米をはじめとする産品の販路の確保に取り組んでいます。このようなプロモーション活動を継続的に実施するとともに、様々なコンテンツを作成しながら、風評被害からの回復に取り組みます。

【施策及び事業】

●プロモーションコンテンツ作成・イベント運営【影響からの回復施策】

らんこし米の安全性や美味しさを改めてプロモーションするコンテンツ（ポスター、動画など）を作成するとともに、札幌都心部や大規模商業施設など、多くの人が行きかう場所でイベントを実施し、風評被害からの回復に取り組みます。

【取組事業】

- ・ **蘭越町農産物オフィシャルパートナー事業【農林水産課】**
本町の農産物を、企業や関係機関とも協力しながらプロモーションするとともに、事業者内での産品の活用（産品を食事として提供、売り場の提供、イベントブースの設置など）を促進する。
- ・ **らんこし米ポスター・PR資材製作事業【農林水産課】**
らんこし米の販売促進プロモーションの際に使用するポスターを作成する。
- ・ **らんこし米販売促進プロモーション事業【商工労働観光課】**
らんこし米をはじめとする農産品や観光など、本町の魅力を様々なメディアを通じてプロモーションする。

●ふるさと納税の有効活用【再生に向けた追加施策】

本町を応援していただいているふるさと納税者に対して安全性をプロモーションするなど、らんこし米の持続的な販路を確保します。また、本町の産品を選んでいただいた方に対して、双方向のコミュニケーションを実施することにより、本町との結びつきをより一層強固なものとし、関係人口の拡大に取り組みます。

【取組事業】

- ・ **ふるさと納税リピーター獲得事業 【商工労働観光課】**
これまでふるさと納税で本町を応援していただいている方へ継続的な協力を求めるため、蘭越町産の農産物の贈答品を送付する。
- ・ **ふるさと納税新規納税者獲得事業 【商工労働観光課】**
本町へのふるさと納税の新規納税者を獲得するため、各種媒体で本町の魅力やふるさと納税の返礼品などをプロモーションする。
- ・ **蘭越との結びつき強化事業 【農林水産課】**
転出者の方を対象とし、本町とのつながりを維持するために、蘭越町産の農産物の贈答品を送付する。
- ・ **未来の農業お絵描きコンクール実施事業 【農林水産課】**
ふるさと納税にらんこし米を選んだ方の子どもや町内の子どもを対象にお絵描きコンクールを案内する。テーマは「未来の農業」とし、スマート農業やDXといった新しい技術を駆使したものなど、子どもならではの発想を絵で表現してもらおう。その際は、農家への応援メッセージも添えて応募。

2 町への愛着を高めるための生活環境の維持・向上

2.1 蒸気噴出による直接的影響からの復旧

蒸気噴出により、町民の日常生活には少なからず影響が発生し、新たに対応が必要となった事項も存在します。このように直接的影響を受けた事柄について、適切に対応することで、町民が安全・安心な日常生活を継続できるよう、各種環境整備に取り組みます。

【施策及び事業】

●生活用水の再生【影響からの回復施策】

蒸気噴出後に一部の専用水道や井戸においてヒ素が検出され、蒸気噴出地近傍では、生活用水に大きな影響が発生しました。また、蒸気噴出場所から近距離に町が管理する簡易水道施設があることから、安全な生活用水整備に取り組みます。

【取組事業】

- ・ **昆布保育所水道切り替え事業 【住民福祉課】**
昆布保育所における散水栓及びトイレに使用している光福寺井戸水を町水道へ切り替える。
- ・ **飲用井戸機能補償事業 【住民福祉課】**
昆布地区で生活用水を井戸水のみで賄っている町民に対し、町水道敷設やヒ素除去装置の設置などにかかる費用の一部を負担する。
- ・ **水道施設整備・更新事業（昆布地区） 【建設課】**
昆布地区簡易水道の水源地から浄水施設までの導水管の敷設（更新含む）を行う。
- ・ **水道施設整備・更新事業（雪秩父） 【建設課】**
交流促進センター雪秩父の飲用水用の水道管を整備する。

●空調施設の整備【影響からの回復施策】

蒸気噴出地近傍の子育て関連施設において、噴出発生中は窓の開閉も憚られるなど、日常生活に影響を及ぼしました。子どもの健康確保の観点から、空調設備を増設するなど、安心な保育環境整備に取り組みます。

【取組事業】

- ・ **昆布保育所空調設備増設事業 【住民福祉課】**
蒸気噴出により、換気が憚られる事になった昆布保育所に空調設備を増設する。

2.2 非常時における対応力の強化

蒸気噴出の発生を受け、町では適切な情報収集ならびに迅速な対応を実施してきました。本町ではその他の災害リスクも有していることから、このような非常時に適切な情報収集に努めるとともに、正確な情報発信、迅速な町民の安全確保が求められます。したがって、非常時の町としての対応力を高めることを目指し、町民の安全・安心な日常生活に必要な施設整備や必要な備蓄品の確保に取り組みます。

【施策及び事業】

●非常時の円滑な対応を可能にするインフラ整備【影響からの回復を加速させる発展的施策】

非常時における迅速な情報収集や町民への即時適切な情報発信を実施するための環境整備に取り組みます。加えて、非常時の町民の移動手段も確保することで、今後発生しうるリスクに備えるとともに、非常時以外は多目的に活用することで、町民の日常生活の利便性向上に取り組みます。

【取組事業】

- ・ **防災無線システム機器更新事業【総務課】**
防災無線（戸別受信機）とスマホ・タブレット・テレビを活用した情報伝達システムの構築など、行政通信システムの更新を行う。
- ・ **非常時情報集約システム構築事業【総務課】**
災害時の迅速な対応に向けて、職員パトロールによりスマートフォンで撮影した様々な災害に関する状況を瞬時に関係者間で共有する防災情報共有アプリとスマートフォン・大型モニターを整備する。
- ・ **緊急時移動確保対策事業【教育委員会】**
スクールバスの整備・更新を通して、子どものみならず自家用車を利用できない町民を対象とした緊急時・日常時の移動手段としてのバス運用の可能性を検討する。バス運用に関する考え方を整理し、マニュアルの整備を検討する。

●非常時に備えた備蓄の強化【再生に向けた追加施策】

非常時の公共施設の機能（電源）維持はもとより、防災備蓄品の見直し・拡充を進めることにより、より確実に迅速な対応が可能となるよう、備蓄機能の強化に取り組みます。

【取組事業】

- ・ **役場庁舎備品整備事業【総務課】**
災害情報の発信拠点となる庁舎において、パソコン・プリンタ・タブレット・スクリーン・プロジェクター・公用車などの備品を整備し、迅速な情報発信や町民サービスの提供を行う。
- ・ **非常時電源等確保事業【総務課】**
庁舎における非常用電源を更新（LPガス化）し、通年での安定的な運用を行うとともに、ポータブル電源や防災テントなどの整備を進める。
- ・ **備蓄庫新規建設事業【総務課】**
既存の備蓄庫に加え、災害時のスムーズな運用が可能となるよう、庁舎周辺に新たな備蓄庫を整備する。

2.3 再生可能エネルギーの活用など、持続可能な暮らしの推進

地熱開発に伴う蒸気噴出の影響により、町民生活や産業に影響を与えた一方で、脱炭素化に向けた取組や再生可能エネルギーの活用に関しては理解を示す町民の意向が確認できました。今般の蒸気噴出により、取組全体を全面的に止めることはなく、安全確保を前提に官民が連携して脱炭素化を引き続き推進し、本町における持続可能な暮らしを実現できるよう、改めて再生可能エネルギーの活用に取り組めます。

【施策及び事業】

●J-クレジットの認証・運用【影響からの回復を加速させる発展的施策】

これまでに取り組んできた再生可能エネルギーの活用を改めて推進するにあたり、J-クレジット制度の認証の取得に向けた検討・調整を進めます。認証後は、本町の取組効果を情報発信するとともに、クレジットの売却を通して、持続的な森林の管理を実施するなど、継続的にまちの脱炭素化に取り組めます。

【取組事業】

・ J-クレジットの認証・運用推進事業【農林水産課】

公共施設等における省エネルギー設備及び再生可能エネルギーの導入や町内の適切な森林管理を図るため、J-クレジットの認証を受け、適切な運用を図る（認証・運用の支援を要請）。

●公共施設における再生可能エネルギーの導入促進【再生に向けた追加施策】

公共施設における再生可能エネルギー（太陽光発電など）の導入を検討します。あわせて、公共施設群の更新にあわせたマイクログリッドの構築により、再生可能エネルギーの地産地消に向けた検討に取り組めます。

【取組事業】

・ 公共施設群マイクログリッド化検討事業【総務課】

今後予定している庁舎周辺における公共施設群のマイクログリッド化を推進するとともに、災害情報の発信拠点、町民の避難施設といった災害時の高い機能を備えた公共施設を整備する。

・ 再生可能エネルギーの活用推進事業【教育委員会】

学校施設への太陽光発電設備の設置を通して、環境負荷の低減を図る。

2.4 次世代を育む、定住意向の高い“蘭越暮らし”の実現

今般の蒸気噴出により、本町内でのイベントが中止になるなど、地域コミュニティの結びつきがやや希薄になった可能性もあります。町民をターゲットにしたイベントなどの開催により、町民の日常生活の満足度の向上に取り組みます。

また、持続可能なまちづくりの観点から、本町の未来をになう子どもたちの成育環境も充実させ、本町の魅力を改めて発信し、将来的な定住意向の向上に取り組みます。

【施策及び事業】

●地域再生イベントの運営【影響からの回復を加速させる発展的施策】

今般の蒸気噴出により、中止となった夏祭りの代替として町民をターゲットとした新しいイベントを開催するなど、地域コミュニティの強化に取り組みます。

【取組事業】

- ・ **町民イベント（イルミネーション）等開催事業 【商工労働観光課】**
蘭越町の良さの再確認と町民が楽しいと思えるようなイベントを開催する。
加えて、イルミネーションの実施やサールフエルデン（姉妹都市）の資源を活用するなど、町民が集まるための工夫を実施する。

●まちづくり講演会の開催【影響からの回復を加速させる発展的施策】

町民の関心ごとの一つである健康づくりなどをテーマに、町民をターゲットにした講演会を開催します。講演会の企画にあたっては、地熱も含めた再生可能エネルギーの活用が地域に与える効果などをテーマにしながら、持続的な地域づくりに向けて取り組みます。

【取組事業】

- ・ **まちづくり講演会運営事業 【総務課】**
健康づくりや地域の持続性など、町民の関心の高いテーマを設定し、住民を対象に講演会（地域課題の専門家を招聘）を開催する。

●子育て環境づくり【再生に向けた追加施策】

保育・教育関連施設における空調設備の整備も含め、快適な環境づくりを推進します。あわせて、本町における産品を学校給食で提供するなど、食育の観点から本町の魅力を子どもたちに伝えるとともに、将来の定住や働く場としてのイメージ醸成に取り組みます。

【取組事業】

- ・ **蘭越保育所空調設備増設事業 【住民福祉課】**
役場に隣接する蘭越保育所に空調設備を増設する。
- ・ **学童保育所空調設備増設事業 【住民福祉課】**
役場に隣接する学童保育所に空調設備を増設する。
- ・ **蘭越ひばり幼稚園施設整備補助金支援事業 【住民福祉課】**
蘭越ひばり幼稚園で空調設備を増設するための経費を助成する。
- ・ **昆布保育所新築移転事業 【住民福祉課】**
老朽化した昆布保育所を建て替えることにより、児童の安全な保育体制を確保する。
- ・ **蘭越中学校施設更新事業 【教育委員会】**
老朽化している蘭越中学校貯水槽・浄化槽を撤去するとともに、水道設備の更新や下水道への接続を行う。
- ・ **学校給食への地域農産品の利用促進事業 【教育委員会】**
地域産品を学校給食で提供するため、学校給食費への安価な町外産との差額補填を行う。また、衛生管理施設を更新し、地域産品を活用しやすい環境を整備する。
- ・ **学校での熱中症防止対策事業 【教育委員会】**
熱中症防止の観点から、小中学校教室への空調設備を整備する。
- ・ **老朽化施設撤去事業 【教育委員会】**
老朽化している学校関連施設（蘭越中学校屋外公衆トイレ・昆布小学校屋外掲揚塔・老朽教員住宅）の解体・撤去を行う。

3 蘭越への来訪・移住を誘発するための環境づくり

3.1 まちのブランド力向上に向けた情報発信

“蒸気噴出が発生したまち”として本町の名前が蒸気噴出時の様子とともに全国に報道されました。しかしながら、事態収束といったその後の報道は少なく、本町のイメージダウンは避けられない状況となっています。町外に向けた情報発信やプロモーションを積極的に行い、本町への興味喚起、来訪にむけた動機付けに取り組みます。

【施策及び事業】

●地域のイメージアップ推進【影響からの回復を加速させる発展的施策】

テレビ放送や広告など、対外的な情報発信ツールを活用することで、本町の現状（噴出の収束に加え、本町の魅力）を正しく発信し、低下したイメージの向上に取り組みます。

【取組事業】

- ・ **蘭越町イメージアップ推進事業** 【商工労働観光課】
イベント企画会社とも連携し、イベント実施（新規・既存の強化を含む）やイメージ広告の発出を行う。

●フィルムコミッションを通じたまちの美しい風景の発信【影響からの回復を加速させる発展的施策】

対外的な情報発信ツールのひとつとして、フィルムコミッションの展開を検討します。映画やドラマ、CMの誘致に加え、風景写真コンクールの企画など、本町の美しい風景の全国への発信に取り組みます。

【取組事業】

- ・ **フィルムコミッションによる聖地化事業** 【商工労働観光課】
映画・ドラマ・CMの誘致に加え、写真コンクールや写真展などの実施など、らんこしの風景を広くプロモーションする。

3.2 来訪者の受け入れ環境の整備

イメージダウンを払拭するプロモーションにより、本町への来訪促進を本格化させるため、来訪者にとって快適な滞在環境づくりに取り組みます。この際には、本町の観光資源を活用しながらニセコエリアに訪れているインバウンド観光客をターゲットにするなど、本町に取り込むべき環境変化も十分に踏まえたうえで、各種施策に取り組みます。

【施策及び事業】

●大湯沼周辺の滞在環境の整備【直接的影響からの回復施策】

蒸気噴出地近傍の大湯沼や雪秩父といった観光資源を再度磨き上げ、集客力を向上します。そのような噴出地近傍の資源をこれまで以上に活用しながら、来訪者をターゲットにした本町の安全性のプロモーションに取り組みます。

【取組事業】

- ・ **雪秩父鉄鉱泉掘削事業 【総務課】**
雪秩父の鉄鉱泉を復活し、施設の魅力を強化する。
- ・ **大湯沼及び雪秩父周辺環境整備事業 【商工労働観光課】**
大湯沼の遊歩道を一新するなど、蒸気噴出地点近くの観光資源の魅力を強化する。

●近隣のインバウンド観光客の誘致【影響からの回復を加速させる発展的施策】

本町の一部を含むニセコエリアには多くのインバウンド観光客が訪れています。スキーリゾートとして全国屈指の雪質を求めて世界より集まってきており、外国資本も投入されながらホテルなどの施設整備が進められています。隣接する町や町内の観光資源を最大に活用しながら、インバウンド観光客の流れの一部を本町にも取り込み、世界に向けた魅力のプロモーションに取り組みます。

【取組事業】

- ・ **昆布温泉公園リニューアル整備事業 【総務課】**
ニセコ・倶知安方面からの玄関口として、昆布温泉公園の新規整備（遊歩道や遊具、キャンプ場等）を行う。
- ・ **蘭越町体験ツアー展開事業 【商工労働観光課】**
主に、ニセコエリアに訪れる外国人や日本人の観光客を対象に、蘭越町への日帰りバスツアーの招待を行い、本町の魅力を発信し、今後の来訪を促す。
- ・ **観光看板等サインエージ整備事業 【商工労働観光課】**
硫化水素量を計測・掲示し、来訪者の安心感を高めるための観光看板の新規設置及び修繕を実施する。

●来訪者をもてなすまちなみ形成【再生に向けた追加施策】

本町のまちなみを形成する各種施設を改修・強化することで、来訪者にとって快適な環境づくりに取り組みます。この際には、既存の道の駅の改修や空閑地の活用検討など、新たな来訪施設の導入にも取り組みます。

【取組事業】

- ・ **ごみ保管箱改修事業 【住民福祉課】**
まちなかにあるごみ保管箱を改修することにより、きれいな街並みの整備を図る。
- ・ **公共花壇等の整備事業 【住民福祉課】**
「ロマンあふれる花いっぱいのもち」に基づいたまちづくりを継続することにより、町のイメージアップを図る。
- ・ **道の駅機能強化事業 【商工労働観光課】**
来訪者の滞在環境を向上するため、道の駅施設の機能強化（トイレや駐車場の拡張や機能向上）を行う。
- ・ **中心市街地土地利用転換検討事業 【商工労働観光課】**
旧蘭越診療所の跡地活用の検討など、本町における中心市街地活性化に向けた整備を行う。

3.3 定住希望者の受け入れ環境の整備

本町の人口はこれまで減少を続けてきましたが、ニセコエリアにおけるインバウンド観光客の増加に伴う従業者の増加により、本町への定住も見られるようになりました。ニセコエリアの賑わいを定住の観点からも取り込みながら定住人口を確保し、地域コミュニティの維持・強化につなげ、町民サービスの持続的提供や充実に取り組みます。

【施策及び事業】

●定住促進住宅の整備【再生に向けた追加施策】

本町への人口流入の契機を最大に活かすため、空き家の改修の実施など、新たな定住人口を確保するための住宅の確保に取り組みます。

【取組事業】

- ・ **ふれあい定住住宅地貸付事業【建設課】**
大谷団地旧住棟跡地及び目名土地（サッカー場隣）の遊休地を定住促進貸付用として造成し、本町への移住希望者に向けた住まい確保を進める。
- ・ **定住促進住宅（黄金地区）の整備事業【建設課】**
本町への移住定住を促進するため黄金地区の定住促進住宅のリフォームを実施する。

●民間投資の受け入れ促進に向けた環境整備【再生に向けた追加施策】

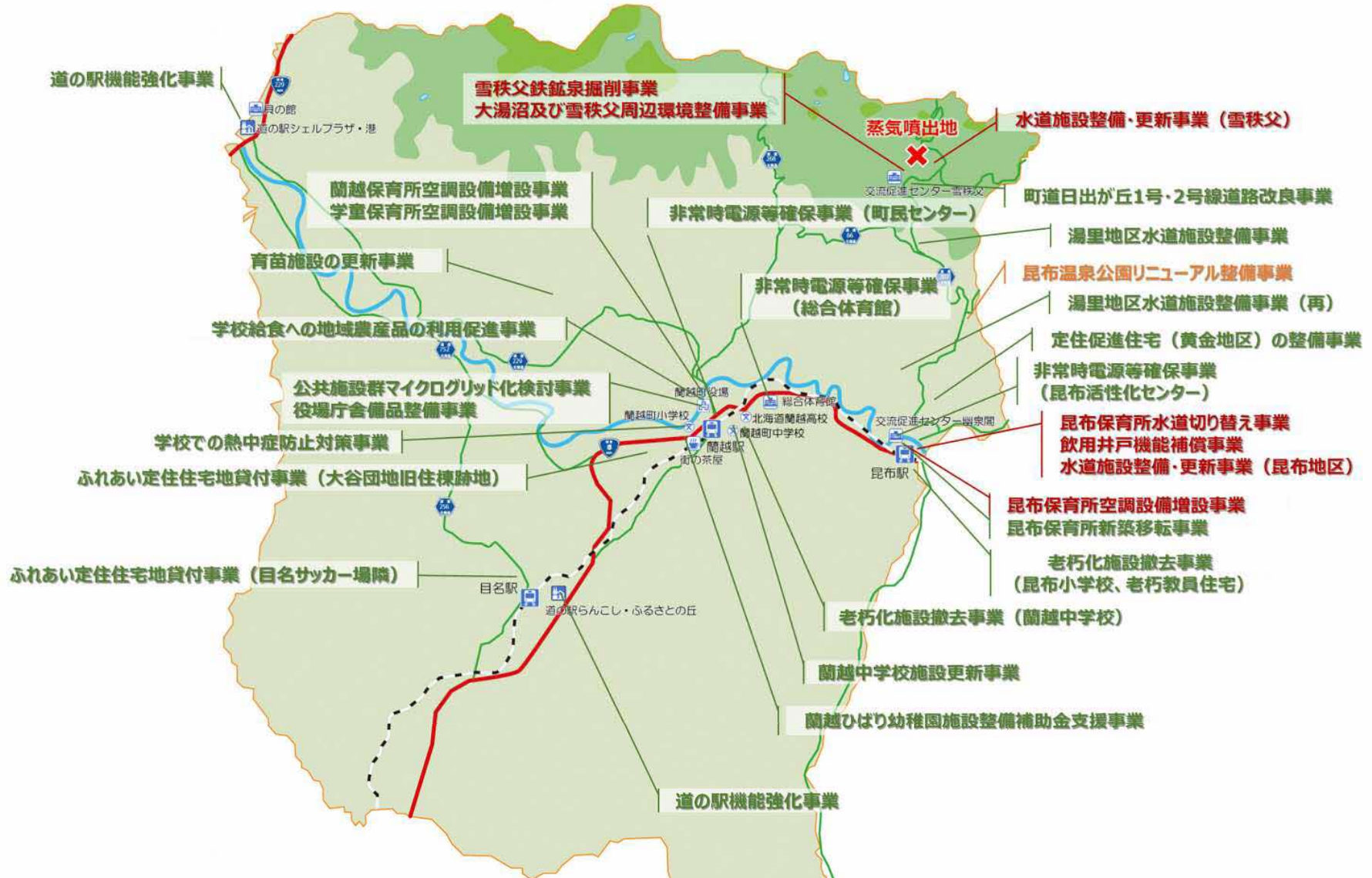
本町では、ニセコエリアに隣接する別荘地として開発された箇所もあり、町への人口流入の契機を最大に活かすため、空き家の改修の実施など、新たな定住人口を確保するための住宅の確保に取り組みます。

【取組事業】

- ・ **湯里地区水道施設整備事業【建設課】**
昆布地区への配水池の増設と旧昆布水源地の再整備により、安定的な飲料水供給量を確保し、地域の発展を図る。
- ・ **除雪機購入事業【建設課】**
特に湯里地区は積雪量が多く、住民や観光で訪れる方の冬期間の安全な交通確保が重要となる。除雪ロータリーと拡幅に必要なタイヤユンボを整備する。
- ・ **町道日出が丘1号・2号線道路改良事業【建設課】**
日出が丘別荘地内の道路（町道認定）の未改良部分について改良を実施し、地域町民が安全に通行できる生活道路を整備する。

【施策及び事業展開図】

●直接的影響からの回復施策 ●影響からの回復を加速させる発展的施策 ●再生に向けた追加施策

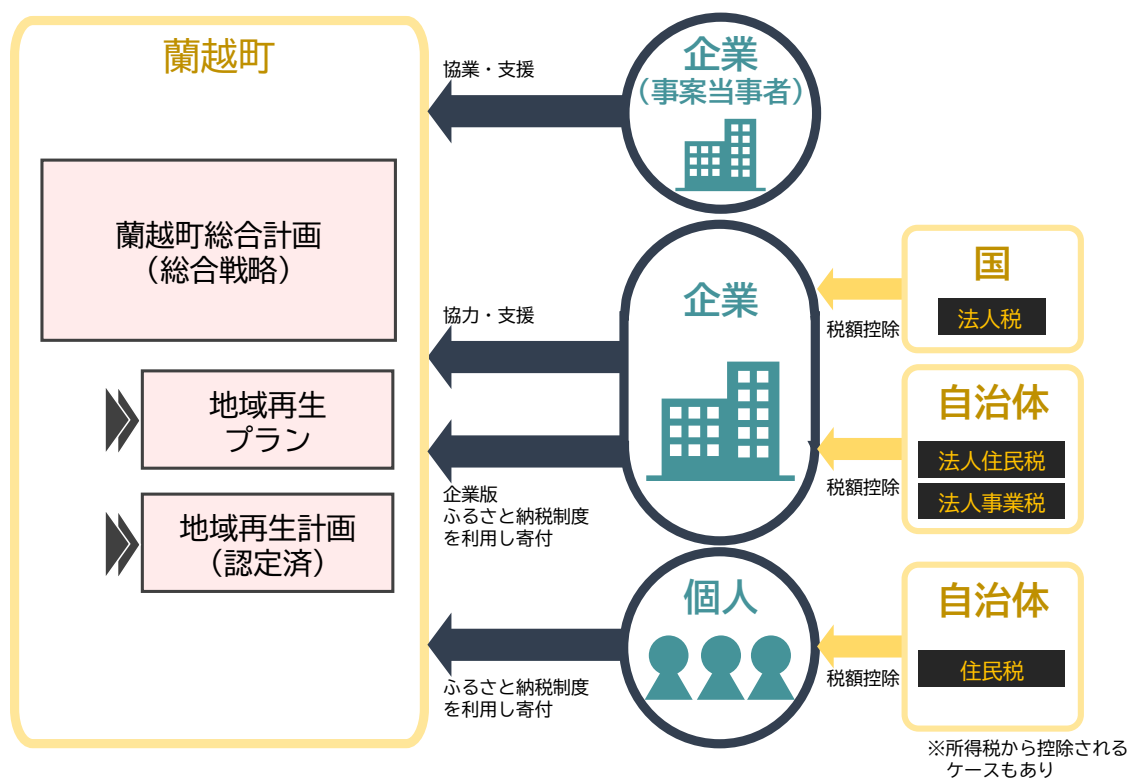


第6章 計画推進に向けて

1 地域再生プランとその他の計画との連携

本プランは、蒸気噴出による影響からの早期回復を主眼に定めたものですが、その根底となる考え方は、本町の第6次総合計画（総合戦略を統合）と共通するものとなっています。

本プランの推進は、本町のみならず民間事業者や町民が連携して進めていく必要があります。具体的には、蒸気噴出事案当事者企業との協業、その他の民間事業者からの協力支援、企業版ふるさと納税制度や個人からのふるさと納税制度を活用した寄付など、官民が連携して施策や事業を推進していきます。

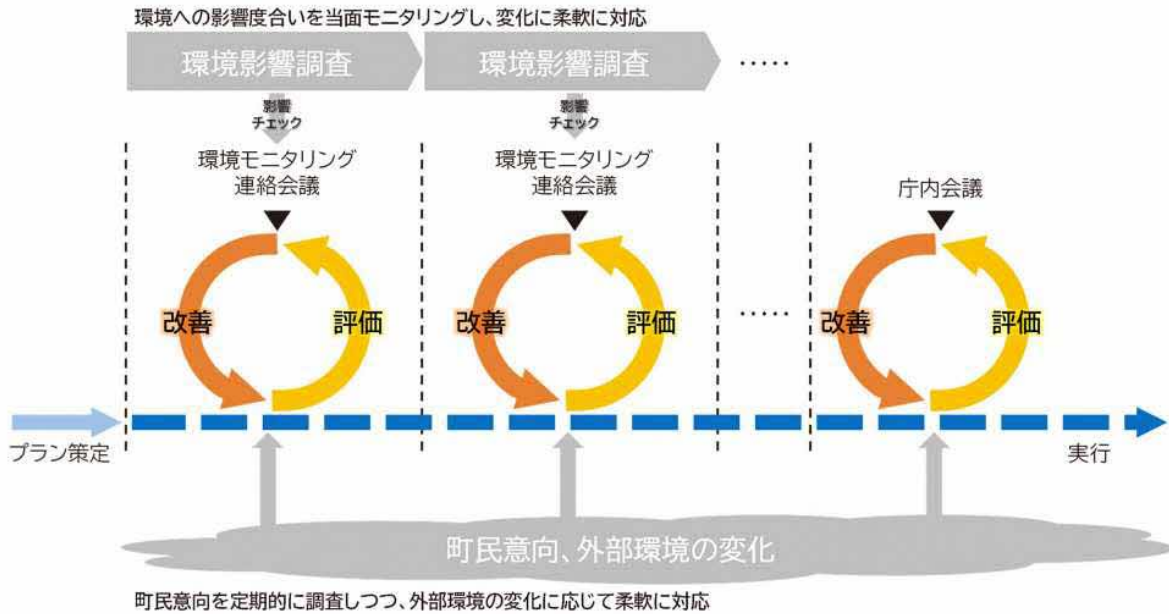


図表 6 関連計画との関係と推進体制

2 地域再生プランの運用と見直し

本プランを推進していくにあたっては、本町のみならず、事業者も含む関係機関とも連携しながら施策を推進していくこととします。特に、蒸気噴出による環境への影響については数年にわたって調査を実施する予定であり、その結果を踏まえて環境モニタリング連絡会議において協議・調整しながら本プランの内容を柔軟に変更するものとします。

また、町民意向や外部環境の変化についても、定期的に確認しながら、必要に応じて施策や事業を見直し、追加するなど、着実に地域の再生を推進していきます。



図表 7 プランの進捗管理